

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-30

|   |   |
|---|---|
| 学校名・団体名   | 富山市立小見小学校   |
| HPアドレス  | <a href="http://swa.toyama-city-ed.jp/weblog/data/toyama054/">http://swa.toyama-city-ed.jp/weblog/data/toyama054/</a> |
| コース   | 学校支援  |
| 活動・研究テーマ  | 少人数のよさを生かし、たくましく生きる子供の育成  |
| <p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>①小規模学校のよさや地域の特性を生かし、個に応じた指導の充実を図る。<br/>②学級・学年の枠を越えた活動、家庭や地域社会の協力を得た活動の充実を図る。<br/>③他校との集合学習や交流学习を積極的に行うとともに、情報通信ネットワーク等の活用を推進し、ものの見方や考え方を広める。</p> <p>これらの取組を通して、一人一人が自分に自信をもち、自尊感情を高め、自他の肯定感を育み、「ふるさと『小見』」に対する誇りと自信、愛情をもってたくましく生きようとする意欲と態度の育成を図る。</p> |   |

## 取組の概要と成果・課題

### 1 「めざせ！小見っ子No.1」 通年

小見の子供たちが、他校に負けない自慢できるものを「小見っ子No.1」として認定する。認定は全校児童の話合いによって決定した。高学年がリードする話合いであるが、どの子供も学年の枠を超えて、自分たちの「よさ」や「がんばり」について語り、認定に向けた取組が進められた。より自分たちの「よさ」や「がんばり」に気付かせるために、①月1回カードへの記載と全校の前で発表する「できることをふやそう、自分のよさをみつけよう」、②友達の良いところをメッセージカードで伝える「ともだちのキラリをみつけよう」、③教員が輪番で一人一人の「よさ」や「がんばり」を記録、提示していく「良いところみつけノート」等の取組を行ってきた。子供たちは自らの「よさ」や「がんばり」への自覚、周囲に認められている安心感をもち、日々の生活を意欲的に送る姿が見られた。今年度は「あいさつ」、「なかよし」、「がんばる」の3点が「小見っ子No.1」として認定され、「小見の自慢」として位置付けられている。

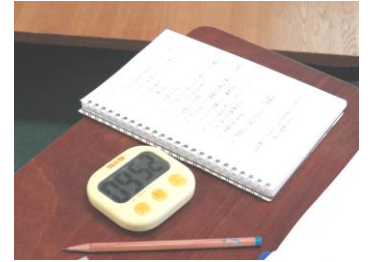


【子供たち全員での話し合い】

### 2 複式学習によるわかる・できる・魅力ある授業の推進 通年

複式学級である本校では、国語科、算数科において1日先生（学習リーダー）を中心とする「ガイド学習」に取り組んだ。1時間の学習の流れを示した「ガイドノート」を作成し児童に提示することにより、子供たちは問題解決の道筋をつかみ自主的・意欲的な学習活動の展開が図られた。子供たち自身が主体的に学習活動を進めることで、教師はそのサポート役に徹することができ、複式の学級においても個々の実態に応じて適切な支援を行うことができた。

「ガイド学習」の充実に加えて、「板書のルール」を設定し、学習課題やまとめ（振り返り）の位置付けを徹底した。その結果、学習の視点と成果が明確になり、子供たちの達成感や成就感につながった。今後は、「ガイドノート」や「板書計画」等の蓄積・工夫・改善を図ることで、より効果的な学習活動の展開が期待できる。



【複式学習でのガイドノート】

### 3 今、わたしにできること ～小見っ子ECOプロジェクト～

#### ① 「環境チャレンジ10」 6月～11月

富山環境財団の指導・助言のもと、地球温暖化防止に向けた様々な活動を行った。自らがめあてを決め、その達成に向けた取組を10週間にわたって行うことで、ECOへの関心を高め、より環境に優しい生活を送ろうという意識の高まりが見られた。また、地球温暖化防止に向けた取組の大切さを家族や地域に働きかける姿も見られるなど、発展的な取組へとつながった。今後は、ESDの視点から環境や自らの取組を見つめ直していく必要がある。

#### ② 「花いっぱい・緑いっぱいプロジェクト」 通年

農園活動、My花壇活動、苗木のホームステイ活動に取り組んだ。苗木のホームステイは、2014年の「どんぐりを植えよう」の活動から取り組み、現在の5・6年生に引き継がれている。子供たちは、自分たちの育てた苗木が地域の緑化につながることを意気に感じ大切に育てようとしていた。より多くの苗木を育て、2017年春に富山県で開催される全国植樹祭の会場に植樹する予定にしている。

### 4 なかよしの輪を広げよう

#### ① 小見小・白馬北小スキー交歓会 1月

スキー交歓会は本校のスキージャンプ台設置を契機に昭和48年に始まった。両校の児童が1泊2日の予定で宿をともにし、ジャンプやアルペンスキーなどを通して交流を深める。希望による保護者の参加も多数ある。40年以上も続く伝統行事で、両校の保護者同士も、小学生時代交流を行っており、数十年の時を経て、再び交流するという場面も見られる。

今年度は白馬北小学校を訪問する年で、3～6年生15名が参加した。例年ない暖冬の影響で、ジャンプ交流を行うことは出来なかったが、様々なゲームやアルペンスキーを通しての交流が図られた。学校規模の違う両校ではあるが、子供たちは臆することなくコミュニケーションを図り、親交を深めていた。



【白馬北小とのスキー交歓会】

#### ② 小見小・福沢小交流活動 6月～1月

同じ中学校区内の小規模校、福沢小学校との集合学習、交流活動を行った。感染症流行の影響で、1回の中止はあったものの、校外学習活動やスキー交流会、希望者による陸上練習会等7回の交流の機会を設けることが出来た。同じ学年同士による授業の実施や単独校では実施が難しい社会科見学、演奏会等も実施でき、子供たちにとって貴重な体験の場となった。

#### ③ ふるさとふれあい活動 通年

公民館やふるさとづくり推進協議会等と連携し、様々な活動を通して地域の方との交流を図った。農園づくりや収穫祭の他、いきいき会食会にも参加し、地域のお年寄りと一緒に会食をしたり、日頃の学習の成果として歌やダンスを披露したりした。様々な方との出会いを通して、子供たちは地域に見守られている存在であることに気付くことができた。

#### ④ 外国とつながろう 11月・3月

Skypeを利用し、英国に住むALTの家族との交流の機会をもった。外国人が相手であっても、日頃の外国語活動の成果を生かし、意欲的に交流を図る姿が見られた。



【Skypeを活用した交流】